

Into my Packet



後藤滋樹の

## 新・社会楽

後藤滋樹  
goto@goto.info.waseda.ac.jp  
早稲田大学 理工学部 情報学科

## 第51回「ウイルス退治」

## 【ウイルスに感染?】

いつも電子メールで連絡をしている友人から、久しぶりに電話がかかってきた。「後藤さん落ち着いてください。昨日の妙な電子メールにはウイルスが入っていますよ。そちらは大丈夫ですか。マシンの調子はおかしくないですか。ワクチンソフトをすぐに届けましょうか」

## 【ありがたい試供品のワクチン】

そう言えば、昨日は変なメールを受け取って、その添付ファイルが読めずに苦労した。ウイルスが付いていたとすると、かえって読めないほうが良かったのかもしれない。しかし放置はできないぞ。私から感染が広がるのは避けたいし、近所の店でもワクチンソフトを販売しているのだが、こんなに深夜では営業していない。

ありがたいことに、本誌の付録のCD-ROMにはワクチンの試用版が収録されている。また日本のウイルス対策の本家であるIPAのホームページ(www.ipa.go.jp)には、市販されているワクチンソフトの情報が載っており、試供品がインターネット経由でダウンロードできる会社もある。とりあえず、これで試してみよう。

試供品は30日間に使用が限定されているものが多い。また多少は機能が制限されている。試供品ではウイルスの検出はできるが、対策までは面倒を見てくれないとか、試供品では最新のウイルスに対応するアップデートができないとか種々の制約がある。これは仕方があるまい。タダで贅沢は言えない。

## 【ワクチン同士の戦い】

CD-ROMとインターネット経由のダウンロードを利用して、3種類のワクチンが揃った。まずA社の製品を試す。割に簡単にチェックが完了した「ウイルスは検出されませんでした」。これで一安心だが、せっかくなのでほかのワクチンも試そう。B社のワクチンは簡単にインストールできた。試供品でも最新のウイルスを検出できるという。説明に従ってボタンをクリックしていくと、インターネット経由でFTPが行われてアップデートが完了した。これで最新というのだから、また安心感が高まる。

C社の製品を試そうとすると、インストールの途中で他社のワクチンソフトを検出した旨のメッセージが出る。A社のワクチンを外すべしということなので、それに従ってAをアンインストール

する。ワクチン同士は仲が悪いらしい。それにしても他社のワクチンを外させるとは面白い。この分野の競争は激しいのか。

それにしても、このC社のワクチンはJavaScriptを克明にチェックするらしい。先ほどから進行速度が急に鈍くなった。私も意識しないうちに、相当にJavaの世話になっている。私のディスクには、こんなにJava関連のファイルがあったのか。C社のワクチンソフトは結局2時間も費やしてウイルス発見せずというメッセージを出力した。A、Bのワクチンは数分で走行した。この差は大きい。

## 【ウイルスの絶滅は難しい】

ワクチンソフトの説明書を読むと、世の中には何万種類のウイルスがあるという。その動作を見ると、単なるイタズラに過ぎないものもあり、またマシンに深刻な悪影響を及ぼすものもある。

私は計算機屋であるから、ウイルスの動作には興味がある。ただし昨今のウイルスの急増は、いわゆるマクロウイルスによるものが多い。まさに私が遭遇したように、電子メールの添付ファイルとして送られる文書や表計算のシートに、隠れた動作がマクロとして記述してある。

ウイルスを作成したり、それをばらまいたりする行為は社会的には許されないものだ。しかしウイルスを根絶するのは難しい。無意識のうちに媒介者となってしまうことだってあり得る。それに対抗するワクチンの技術があるのは幸いである。そう言えば私の自宅のパソコンには最初からワクチンが入っていた。最近、大学で大量に納入されたマシンにも最初から組み込まれている。

## 【ワクチンは必需品か】

結局のところ、私のマシンでは3種類のワクチンを使っても、その日はウイルスを発見できなかった。これで安心すべきであろうが、ちょっと気になる。私の友人はウイルスを発見したという電話をくれた。私のほうで発見できなかったのは、試供品のワクチンのためなのか。

一応チェック済みとなったマシンを使って電子メールで連絡をする。いつもと変わらない。「こちら異常なし。ウイルスを発見できず。」友人からの返事がすぐに届く。「あのウイルスはマッキントッシュのものでした。後藤さんがウィンドウズならば関係ない筈です。」あーあ。それを最初に教えて欲しかった。





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)